

うにゆうとツンデレ (略してうにゅつん)

～本音と建前を利用してキャラクターを作る～

言う人 りすな

「自己紹介しろよ」って言われたから 作ったゴースト並べましたその1



ウラ～欠落少女～

主なネタ…愛 虐待 差別 中原中也



ロリーナとダイナ

主なネタ…サブカルファッション 童話 銀河ヒッチハイクガイド



360度Qibla

主なネタ…歴史 宗教



サンフランシスコの雁

主なネタ…思い出話

「自己紹介しろよ」って言われたから 作ったゴースト並べましたその2



ドリッテ・クロイツ

主なネタ…色々なゴーストについて 軍事 ネット Cool Japan



不知敗のニコレット

主なネタ…武侠 食べ物



馮異が如く

主なネタ…兵法 歴史



ピュアフェアリー探偵事務所

主なネタ…探偵

前置き

ツンデレと書きましたが、
話す内容のメインではありません。

こう言ったほうが掴みがいいかなと思ったので
こういうタイトルにしました。

中国文学に見る本音と建前

中国では昔から1000年以上前から講談が盛ん

ただし、言論の自由なんてなかった

物語の中といえど、
「皇帝なんて従う必要ねえよ！」
なんて言おうものなら・・・

首がぽぽぽぽーん

本音を隠して正論ばかり吐くお説教よりも
本音で毒を吐いているブログのほうが面白い



講談も面白さが求められるので
毒を吐く必要がある

講談師たちは
キャラクターを利用して毒を吐く(本音を吐く)
という方法をとった

三国志演義の 張飛

「なんであんな役人にへつらわないといけねえんだ！
あの野郎、ぶっ飛ばしてやる！」



三国志演義の 劉備

「陛下の意向には従うのだ張飛！」

本来ならとがめられるようなキャラクターの発言も
「それは間違いだ」
と別のキャラクターがたしなめることで
発言を可能にしている。

中国の古典に出てくる本音キャラと建前キャラ

作品名	建前キャラ	本音キャラ
水滸伝	宋江	李逵(鉄牛)
説岳全伝 (岳飛伝)	岳飛	牛皋
隋唐演義	秦叔宝	程知節
三国志演義	劉備	張飛
西遊記	三蔵法師	孫悟空

もともとは
お上のお咎めを避けるための方法



本音キャラクターの魅力を引き立てるという
効果を生み出している

仮面に押し込められた本音 (シャドウとペルソナ)

自分が我慢していることや
できないことを
別の人がやっていて苛立った経験って
ありませんか？

クリスマス爆発しろ

主人公が

- ヒロイン以外の女性キャラに誘惑される
- ヒロイン以外の女性キャラといい雰囲気になる



ヒロインが主人公に対して暴力を振るったり
主人公に対して怒りを向けたり
不機嫌になったりする

らんま1/2の天道あかね
ラブひなの成瀬川なる
ゼロの使い魔のルイズ
など

人は生きていく上で社会と接していく必要がある



そのためには社会にあわせた人格を作る必要がある



ユングという分析心理学の創始者は
その外向けの人格に仮面を意味する

「ペルソナ」

という名前をつけました

ペルソナが
社会の中で求められていると
意識して作られていった人格であるなら

その反対に必要ないとして無意識のほうに
押しやられた人格もある

それを影(シャドウ)と呼ぶ

影を無意識の奥に押し込むのではなく、
影と向き合って対決することが
自我をより高位のものにするために必要

byユング

個性化について

ペルソナ（意識）とシャドウ（無意識）の統合



自我を高位にするために必要不可欠である

スターウォーズの場合

ジェダイのルーク

ダークサイドのダース・ベイダー

ダース・ベイダーは作中でルークに
二人で銀河帝国の皇帝を殺して銀河を支配しよう
と誘う

しかしルークは、
そんなダースベイダーの誘いを拒絶する

フォースの使い手として見た場合のベイダー
「ルークが否定している方向で完成している存在」

ルークが正義のジェダイであり続ける場合で見た
ベイダー

「その目標を妨げる存在」

となりのトトロ

サツキとメイという
二人の女の子が
糸井重里ボイスのお父さんに連れられて
田舎に引っ越して
トトロというよくわからない生き物と出会うお話
あと、お母さんが少し離れた病院に入院してる

トトロの終盤

今度の月曜日にお母さんが一時退院の予定
しかし
お母さんが体調を崩してしまったため延期

「お母さんの病気の具合が悪いんだって。
だから、今度帰ってくるの延ばすって……」

「やだ！！」

「仕方ないじゃない。
無理して病気が重くなったら困るでしょ。」

「やだ！」

「ねえ、ちょっと延ばすだけだから」

「やだ！！」

「じゃあおかあさんが死んじゃってもいいのね！？」

「いやだあ！！！」

「メイのばか！！！！もう知らない！！！」

気丈に振舞うサツキだが

「この前もそうだったの……
ほんのちょっと入院するだけだって
風邪みたいなものだって……
お母さん 死んじゃったらどうしよう」

といって泣き出してしまう

本当はサツキも母親に会いたい

サツキ … 寂しさを我慢するというペルソナ

メイ … ペルソナをはずしている

サツキにとって

メイはシャドウ

トトロのラストシーン

元気そうに父と話す母の姿を
病院の外にある松ノ木の上から見て
二人は安心し
窓際にトウモロコシをそっと置いていく

「病院には行ったが二人が直接母親に会わなかった」

メイは会うのを我慢した



ペルソナを身につけた

サツキはトウモロコシを届けるのを受け入れた



シャドウを受け入れた

影は
「克服するべきもの」
である場合と
「受け入れるべきもの」
である場合が存在する

「暗い像がわれわれの夢にたち現れ
何事か欲するとき、
それがわれわれのたんに影の部分を
人格化したものか、
あるいは自己の人格化か、
その両者なのかわからないのである。
そのくらい同伴者が、
われわれの克服すべき欠点を象徴しているのか、
受け入れるべき意味のある生き方のひとつを
象徴しているのかを前もって区別することは、
われわれが個性化の過程において出会う
最も困難な問題のひとつである。」

フォン・フランツ「個性化の過程」より

ぽなさんが大好きな

魔法少女まどか☆マギカ

魔法少女まどか☆マギカ

人々を自殺などに誘い込む魔女と
魔法少女が戦っている

魔法少女はよくわからない生き物と少女が契約して
魂を差し出すことで魔法少女になる

魔法少女は絶望したり、
魔法を行使してケガレをためることで
魔女に変化

魔法少女が絶望して魔女になると
宇宙を運営するためのエネルギーが生み出せる

よくわからん生き物はそのエネルギーを集めるため
少女と契約して魔法少女にしてきた

主役のまどかにとってのシャドウは誰か？

物語最初期のまどか

**「なんの取り得もない自分でも、
誰かの役に立てるようになりたい」**

という漠然とした夢を持っていた

人々を守るために魔法少女として活動している
巴マミと出会う



まどかは願いは決まっていなかったものの
魔法少女となって
巴マミと共に戦う決意をする

はずだったのだが
巴マミが魔女との戦いで首を食いちぎられて
死んでしまい
魔法少女になるのはやめる

まどかにとって巴マミは
自分の目標を達成した存在であった

マミの死後
まどかの友人の美樹さやかが魔法少女になる

マミの遺志を継ぎ
他人のために魔法を使うことを掲げる



マミの死で魔法少女になることを恐れた
まどかにとって

死の恐怖を克服して魔法少女となったさやかは
マミ以上にまどかの目標を達成した存在

しかしさやかは
恋愛が成就できなかったことがきっかけとなって
絶望しケガレを溜め込み
魔女へと変わってしまう

最終回でまどかは耳毛の長い生き物と契約して
魔法少女となる

契約の際の願いは
「すべての魔女を生まれる前に消し去りたい」

まどかがその願いに至った理由

「今日まで魔女と戦ってきたみんなを、
希望を信じた魔法少女を、
私は泣かせたくない、
最期まで笑顔でいて欲しい」

「希望を抱くの間違いだなんて言われたら、
私、
そんなのは違うって何度でも言い返せます」

希望が絶望へと繋がることを否定し
希望を抱くことを肯定している

ということは

マミの遺志をついで人々の役に立ちたいと思い
魔法少女になったが
希望が絶望に変わったために魔女となった
美樹さやかは
まどかの逆方向に目標を達成してしまった人物

となる

さやかは
「まどかが否定している方向で完成している存在」
として

まどかのシャドウにあたる

まどかはさやか(シャドウ)の努力を否定していない

最終回で
「さやかがやったことは無意味じゃなかったと思う」
という趣旨の発言をしている

絶望を否定しつつ
絶望して魔女になってしまったさやかの行為も
受け入れている

まどか☆マギカを
さやかが主役の物語として考えるならば

巴マミという目標を達成した存在へ
近づこうとするあまり無理をして
結局負の方向に目標を達成してしまった物語

と言える

ある種の
ピカレスク・ストーリー(悪者の物語)
と言えるものとなる

「あしたのジョーのジョーは力石徹という影に
殉じるようにバンタム級に固執し、
燃え尽きていこうとする。
これはスターウォーズで言うなら
ルークがダークサイドに堕ちるようなものである」
※要約

大塚英志 著 キャラクターメーカーより

このように

シャドウがすぐにわからない場合

ということも多々ある

最初に中国文学で挙げた本音と建前キャラクターの
場合

建前キャラがペルソナだが

本音キャラのシャドウは受け入れる存在ではない



本音を肯定すると講談師の首が刎ねられるので
本音を肯定するわけにはいかない

あの場合の本音キャラは
「物語の受け手の代理人＝アバター」

として考えたほうがスマートである

つまり張飛は
物語の読み手の代理人の機能を持っている

ラブコメで暴力を振るうキャラの場合

ヒロインがペルソナで
当て馬キャラがシャドウになる

ただし
ヒロインが成長するための要素として
利用されないことも多々ある

じゃあどうやってゴーストに使おうか

中国文学で見られた本音キャラと建前キャラは
アバターとして導入できる

では、
主人公が対決すべき
負の側面であるシャドウは
どうすればいいのか

**主人公の影を設定することは
成長物語を描く上で有用**

**これをゴーストに応用するとなると
ゴースト上で成長物語を用意する必要がある**



めんどい

楽な方法

メインをツンデレっぽくして
ユーザへの当て馬ポジションの相方を用意する



欠点
当て馬なので完全に引き立て役になってしまう



自分のゴーストはみんな可愛って人には
難しいかも

ゴースト以外の漫画やSSなどの創作で使う
(二次創作含む)

大変だけどゴーストでやるよりは簡単

個人的にはどなたかやっていただけると嬉しいです

ありがとうございました